

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月11日
枚方市立津田小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

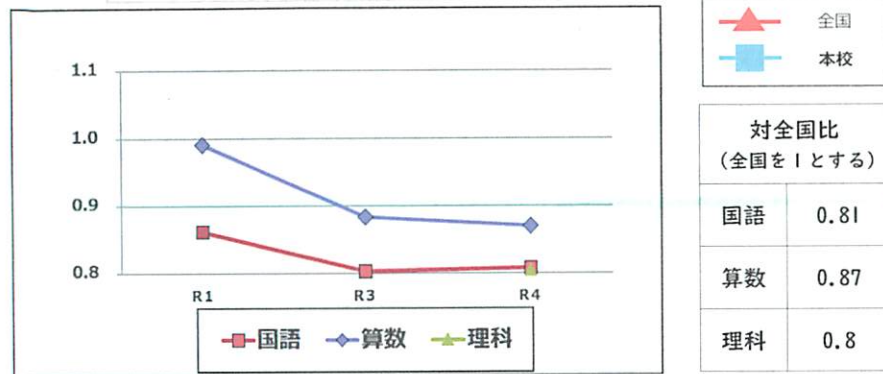
【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→記述問題で、解答に必要な言葉を選択すること、決められた文字数で解答することなど、基本的な条件をふまえて記述する力に課題のある児童が多い。まずは、問題の意味や内容を理解することが必要。日頃から正しく、美しい表現にたくさん触れ、正しい文章を書く練習が必要である。また、漢字の反復練習、作文や視写などを通して、日常生活において、たくさんの文章に触れる、文を書くときに正しく漢字を使用できるよう指導していくことを意識して取り組んでいく。

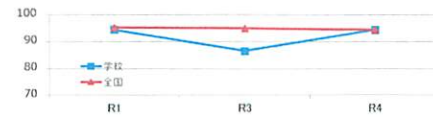
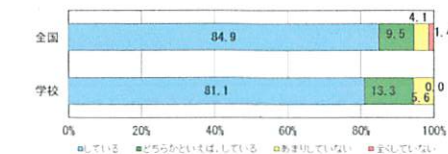
○算数について

→解答の過程において、「自分の考えを言葉と数を使って説明すること」「問題の意味や内容を理解すること」に課題がある。「割合」の問題で、児童の日常生活に身近な「飲み物」の問題だったが、実生活では感覚でできていることも、数学的に考えることになると説明が難しい。「算数×生活体験」という結びつきを生かせるよう指導する必要がある。

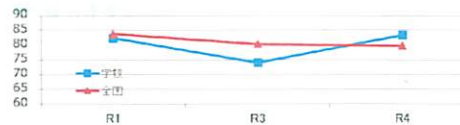
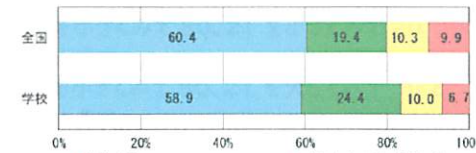
○理科について

→記述式の問題において、文章を書くことに対する苦手意識のある児童が多く、無回答率が他の問題に比べて高くなっている。また、資料のどの部分を使って理由をまとめたらいのかを見つけることが難しく、記述に必要な言葉が抜けているなど、内容が不完全な文章になっており、文による表現力の育成が必要である。

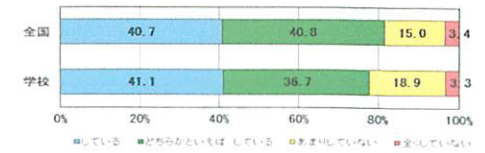
朝食を毎日食べている



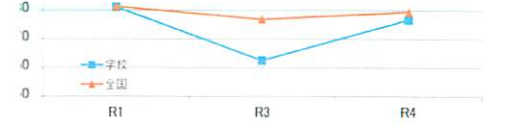
将来の夢や目標を持っている



毎日、同じくらいの時刻に寝ている



自分には、よいところがあると思う



<質問紙調査結果の概要> 全国平均より多くの項目が下回っている。多くの項目で令和3年度より向上が見られる。昨年度より、すべての児童に対し、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を実施し、その成果が表れていると考えている。今年度は「授業で生徒指導」をテーマに掲げ、基本的な学習規律・生活規律を確立させるとともに、児童同士、児童と教師などの「つながり」を大切に、主体的な学びにむかう児童の育成に取り組んでいる。将来の夢や目標を持っている児童が平均を上回った。教員が目的意識を持ち、授業づくりに取り組むことで、児童の学力向上に繋がることを期待している。課題としては、「家庭での読書時間」が全国平均を7%下回り、また、校内アンケートでは「日常的な読書」に取り組んでいる児童が53%と低い数値を示している。図書部と連携し、読書活動を推進していく。

まとめ

多くの項目で令和3年度より向上が見られた。昨年度、課題としていた「自己肯定感・自己有用感」を高めるための学習指導・生徒指導が実を結んだものと考えられる。単発的な評価で終わらず、次年度以降も継続していくことが課題である。現在の落ち着いた学校全体の環境を維持し、次年度も引き継いでいきたい。その為には、基本的な学習規律「チャイム着席」「挨拶」を徹底させる。授業づくりにおいても「Hirakata スタンドアット」に則り「めあて」「ふりかえり」をし、「何を学んだか」「次は何を学ぶのか」等を児童に考えさせるなど、児童が主体的に学びに向かう「学力向上の取組」を推進したい。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月11日
枚方市立津田小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

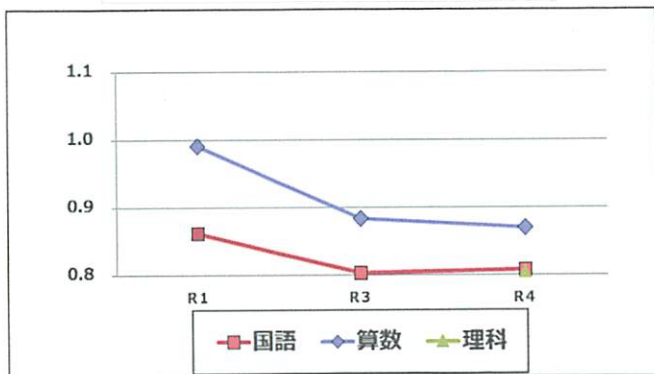
学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



対全国比
(全国を1とする)

国語	0.81
算数	0.87
理科	0.8

※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→記述問題で、解答に必要な言葉を選択すること、決められた文字数で解答することなど、基本的な条件をふまえて記述する力に課題のある児童が多い。まずは、問題の意味や内容を理解することが必要。日頃から正しく、美しい表現にたくさん触れ、正しい文章を書く練習が必要である。また、漢字の反復練習、作文や視写などを通して、日常生活において、たくさんの文章に触れる、文を書くときに正しく漢字を使用できるよう指導していくことを意識して取り組んでいく。

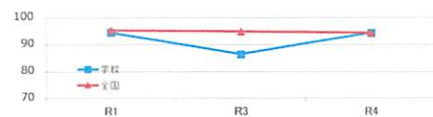
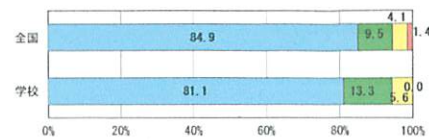
○算数について

→解答の過程において、「自分の考えを言葉と数を使って説明すること」「問題の意味や内容を理解すること」に課題がある。「割合」の問題で、児童の日常生活に身近な「飲み物」の問題だったが、実生活では感覚でできていることも、数学的に考えることになると説明が難しい。「算数×生活体験」という結びつきを生かせるよう指導する必要がある。

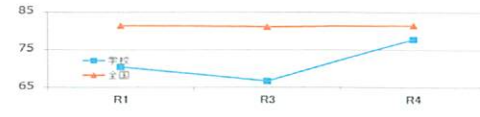
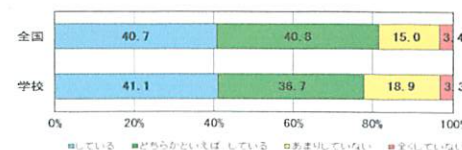
○理科について

→記述式の問題において、文章を書くことに対する苦手意識のある児童が多く、無回答率が他の問題に比べて高くなっている。また、資料のどの部分を使って理由をまとめたらいのかを見つけることが難しく、記述に必要な言葉が抜けているなど、内容が不完全な文章になっており、文による表現力の育成が必要である。

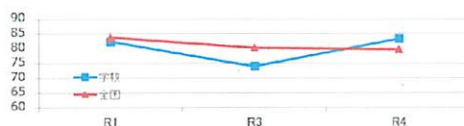
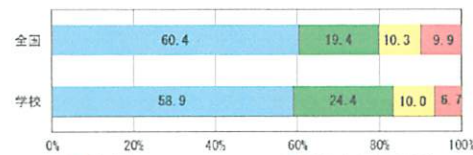
朝食を毎日食べている



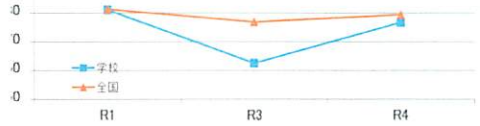
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



将来の夢や目標を持っている



自分には、よいところがあると思う



<質問紙調査結果の概要>全国平均より多くの項目が下回っている。多くの項目で令和3年度より向上が見られる。昨年度より、すべての児童に対し、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を実施し、その成果が表れていると考えている。今年度は「授業で生徒指導」をテーマに掲げ、基本的な学習規律・生活規律を確立させるとともに、児童同士、児童と教師などの「つながり」を大切に、主体的な学びにおく児童の育成に取り組んでいる。将来の夢や目標を持っている児童が平均を上回った。教員が目的意識を持ち、授業づくりに取り組むことで、児童の学力向上に繋がることを期待している。課題としては、「家庭での読書時間」が全国平均を7%下回り、また、校内アンケートでは「日常的な読書」に取り組んでいる児童が53%と低い数値を示している。図書部と連携し、読書活動を推進していく。

まとめ

多くの項目で令和3年度より向上が見られた。昨年度、課題としていた「自己肯定感・自己有用感」を高めるための学習指導・生徒指導が実を結んだものと考えられる。単発的な評価で終わらず、次年度以降も継続していくことが課題である。現在の落ち着いた学校全体の環境を維持し、次年度も引き継いでいきたい。そのためには、基本的な学習規律「チャイム着席」「挨拶」を徹底させる。授業づくりにおいても「Hirakataスタンダード」に則り「めあて」「ふりかえり」をし、「何を学んだか」「次は何を学ぶのか」等を児童に考えさせるなど、児童が主体的に学びに向かう「学力向上の取組」を推進したい。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。

【話し合いの様子の一部】で、谷原さんが一部アのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 意味を説明することで、同じ音でも複数の漢字があることを知ってもらうため。
- 2 意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別するため。
- 3 くり返し伝えることで、相手の考えを引き出すため。
- 4 くり返し伝えることで、言葉のリズムをよくするため。

	正答率	無解答率
本校	75.3	0
全国	85.5	0.9

（考察）

解答の方法が選択式であったこと、今回のテストのはじめの設問で、「無解答率が0」ということから、意欲的にじっくり考えて、正答を導くことができたのではないかと考えられる。日々の授業を通し、「何事にもあきらめずにチャレンジしよう」という気持ちが育まれたと考える。

また、同音異義語など、日常生活で実際に疑問に思ったことがある経験等から、自分に置き換えて考えることができたのではないかと考えられる。

【課題】

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。

島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。

次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

- ・文章のよさを書くこと。
- ・文章から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ・六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	36.0	3.4
全国	59.2	2.5

（考察）

全国と比較して正答率の差が大きく、無回答率が高い。「よさ」を書くこと、言葉や文を取り上げること、字数制限等、条件に合わせて書く必要がある中で、これらが抜けた解答が多い。日頃から自分が伝えたい文章になっているか、条件に合っているかどうかを、読み返して確認することを習慣化させる必要がある。問題自体が最後の方の設問ということもあり、解答する時間が不足したことも予想されるので、問題全体を見通して、時間配分ができるように、予め指導・練習の必要がある。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。

1 個人り85円のカップケーキ21個分の値段は、85×21で求めることができます。85×21の答えが、1470より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。アからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85を小さくみて80、21を小さくみて20として計算します。
- イ 85を小さくみて80、21を大きくみて30として計算します。
- ウ 85を大きくみて90、21を小さくみて20として計算します。
- エ 85を大きくみて90、21を大きくみて30として計算します。

	正答率	無解答率
本校	39.3	1.1
全国	34.8	0.9

（考察）

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の關係に着目し、数の処理の仕方を考える問題である。

数を大きくとらえるのか、小さくとらえるのか、どちらが良いのかを目的に応じて考える問題で、日常生活に深く関わっており、生活に必要な技能が問われている。全国と比べて正答率が高く、これまでの経験・学習の成果と言える。

【課題】

示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す

はなこさんたちは、一辺が5cmの正三角形をかこうとしています。正三角形のプログラムをつくり、実行しましたが、かくことができませんでした。そこでつくったプログラムを見直すことにしました。かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すとよいですか。

下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

- ア 5cmの直線を引く。
- イ 左に60°回転する。

	正答率	無解答率
本校	29.2	0
全国	48.8	0.6

（考察）

正三角形の意味や性質をもとに、図形を構成する要素に着目して考察し、言葉と数を用いて記述する問題である。正三角形の性質だけでなく、記述するための条件を入れることも必須であり、まずは、問題の主旨を理解することが重要となる。

三角形の内角の和、内角と外角の大きさの關係を理解するところから復習させ、他の図形の場合はどうなるのかなど、理解できているかどうかを確認する必要がある。

<理科>

成果や課題があった設問

【成果】

水 50mL をはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ。

メスシリンダーに次の図のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50mLの水をはかりとりためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 2mL
- 2 3mL
- 3 4mL
- 4 6mL

	正答率	無解答率
本校	69.7	0
全国	70.0	0.6

(考察)

メスシリンダー内の水の体積を誤って読み取る可能性が高く、目盛りの読み方を理解していることが大切な問題である。また、「メスシリンダー」「スポイト」等理科の基本的な器具の名前や使い方をすることは、実験を行う上で重要である。

この問題は、全国と比べて正答率の差が小さく、メスシリンダーの正しい扱い方を理解している児童が多いことがわかる。

【課題】

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を記述する。

砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

たろうさん: 水をこおらせた物は、紅茶にうくの、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

りかさん: 水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

はるとさん: 砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を 1 つ書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	20.2	15.7
全国	32.7	8.7

(考察)

全国的にも正答率が低く、また無回答率が高い。本校の児童は問題の意味が理解できていないと考えられる。

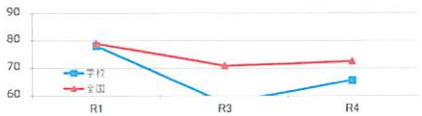
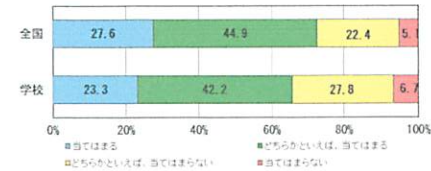
自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈した上で、自分の考えを記述する問題である。日常の授業では触れる経験のない形式の問題であるため、このような形式の問題にくり返し取り組み、慣れさせる必要がある。

質問紙に関する調査

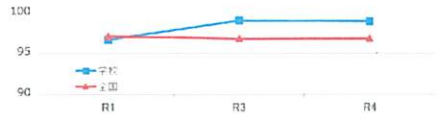
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【成果のあった項目】

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している

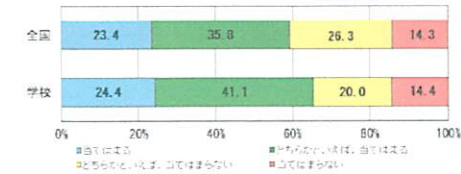


いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



▲ 全国
 ■ 本校

国語の勉強は好きですか



【考察】

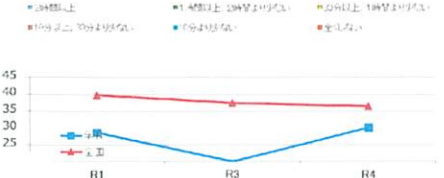
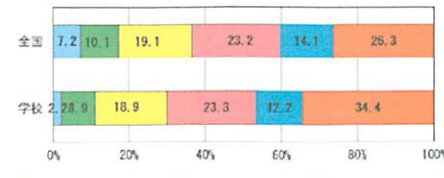
令和3年と比較し、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」が上昇に転じた。将来の夢や目標を持っている児童が多く、その影響もあると考えられる。関連して、「国語の授業が好き」と答えた児童も全国平均を上回った。日々の教育活動に前向きに取り組んでいる成果が出たと考えられる。国語はすべての学習につながる「読む・書く・話す」の基礎となる。今後も児童の学習意欲を大切に、魅力ある授業づくりを行っていききたい。日頃から児童や保護者の声を丁寧に聴き取り、思いに寄り添うとともに、児童一人ひとりの様子を観察し、仲間意識を醸成していることが、いじめに対する意識を高めている。いじめに関しては組織的体制を構築しスピード感をもって対応している。児童の安心安全を第一に考え、これからも継続して「魅力ある学校づくり」を推進していく。

【課題が残った項目】

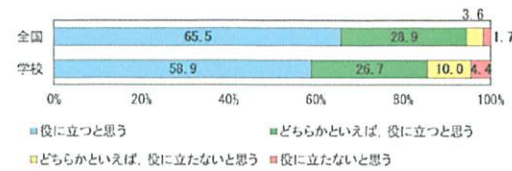
自分で計画を立てて勉強している



学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか



学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



【考察】

すべての教科において全国・大阪府平均を下回っている。また、教員の指示通りに動き、学習する受動的な能力はあるが、「主体的に学ぶ」という点に課題がある。すべての児童にとって「わかる授業」をするためにもICTを積極的に活用していきたい。「タブレットドリル」の活用は、各学年、各学級において使用頻度にバラつきが見られる。授業での隙間時間、家庭での学習等、効果的に使用できるよう促進していく。「ロイロノート」において、模範解答の掲示、提出物の管理、カメラ機能等を活用し、より魅力ある授業を展開していけるよう、組織的に取り組んでいく。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

<基本的な学力の定着>

漢字や計算等、反復練習の徹底を行う。授業中の隙間時間や家庭学習に「タブレットドリル」等のICT機器を活用する。また、授業では、「具体物」を使うなど、学習課題を具体的にとらえ、解決のための見通しを持ち、解決できるよう指導・支援する。さらに、「チャイム着席」等の学習規律の徹底を行って環境を整えるとともに、児童の学習に向かう気持ちを高めさせる。

<「めあて」「ふりかえり」を大切に>

児童自身が「何を学習する(した)」のかを認識できるように、教員が、各教科において目的意識を持って取り組む。児童に「次は何を学習するのか」を意識させ、ゴールが明確にわかる授業づくりをする。

<「逆向き設定」を意識して>

教員は、児童に何を学ばせたいのかを常に意識し、「めあて」に到達するためにはどう授業を展開すればよいか、全体を見通した授業づくりをする。そのために、校内研修等をさらに充実させていく。

(2) 家庭学習について

<家庭との連携>

「宿題は家庭です」という習慣がつくよう、保護者に協力をお願いする。また、「スマートフォンや携帯ゲーム機などの使い方」について家庭における約束事等を確認し、家庭において徹底していただく。

<ICT機器の活用>

児童の学習進度や苦手な単元に合わせてタブレットドリルをするなど、家庭学習で活用する。

<自主学習の取組>

自分が調べたいことに対して、児童自身が「めあて」を持って取り組めるよう指導する。また、それを友だちと見せ合ったり、意見交流をするなど、児童同士が互いに高め合えるような機会を設定する。

(3)学校教育自己診断の分析結果と改善方法について

令和4年度 学校教育自己診断「津田小学校の教育に関するアンケート」

(児童数507名(家庭数385)に配付し、299名の保護者から回答)

【学級編成・教職員の配置について】

令和5年度で、第5学年が2学級になることにご意見をいただきました。学級編成については、文部科学省が定める「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」等によって決定し、これに応じて教職員の数も決められており、4年生まで「1学級35人」、5・6年生は「1学級40人」となるよう学級が編成され、教職員が配置されています。令和5年度の第5学年の児童数は、現在78名の予定です。今後、転入があり、81名以上になりますと3学級になる可能性があります。この件について、本校独自の制度ではないということ、今後、児童数が減少した場合は、他の学年も同様である(例えば、第2学年の児童数が70人以下であれば2学級となる)ことをふまえて、ご理解ください。学級担任は2人となりますが、担任以外の教員が授業をする専科制度やクラスを分割して学習指導をする「少人数指導」制度を取り入れて、担任以外の複数の教員が児童を見守り、支援・指導にあたります。ご不安等をおかけし、誠に申し訳ございませんが、国が定めた制度による学級数であることをご理解いただきますよう、お願いいたします。

【学習規律等について】

新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、保護者の皆様には来校し、子どもたちの様子をご覧いただきました。学習規律や学校生活におけるきまりやマナー等について、教職員だけでなく、児童会が中心となり、各学級で「自分たちの学校生活」について考える機会を設け、放送集会や掲示板を活用するなど、啓発活動に取り組んだことにより、子どもたちは落ち着いて学校生活を送っています。しかし、「落ち着いて学習ができています」と肯定的な捉えの児童及び保護者の割合は、昨年度よりも5%低くなっています。今後は、児童と教職員、保護者の皆様が一丸となって取り組むとともに、児童が主体となり、すべての児童にとって「より良い学校」になるよう、支援・指導していきます。また、85%以上の児童は、「先生は、がんばったことをほめてくれる」と、保護者の皆様の95%は、「学校は、子どもの意見や考えを大切に、子ども理解に努めている」と肯定的に捉えてくださっています。互いの「信頼関係」を大切に、これからも、「つながり合う」学校づくりを進めていきます。

【学習指導について】

1人1台貸与のタブレット端末活用した授業づくりでは、児童の発達段階や教科・科目の特長に応じて、デジタルの良さ、アナログの良さを見極めながら取り組んでおります。今後は、児童自身がタブレットを文房具のように使うとともに、各教科における課題解決に向けて、児童が解決のための方法を主体的に選択して取り組めるよう、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を意識した授業づくりを進めていきます。また、各教科の授業において、児童がペアやグループで話し合う活動を取り入れてきました。アンケートにおいて、「話し合いをしている」(低 91%、高 95%)と感じている児童の割合が増えているものの、話し合いを通して「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と感じている児童の割合(低 82%、高 81%)が減っています。授業での「話し合う目的」を明確にするとともに、児童同士の「対話」や児童同士の「学び合い」を中心に据えた授業改善を進めていきます。さらに、家庭学習について、予習や復習、タブレットやドリル等を活用した反復練習の仕方を具体的に指導する必要があることが、アンケート結果からよく分かります。児童の発達段階に応じた方法を、丁寧に指導していきます。加えて、読書活動について、時にはゲームやスマホから離れて、本や絵本に親しむ時間をもつなど、家庭におけるお子さんへの声かけ等をお願いします。

【運動会・校外学習等について】

今年度も、感染予防に配慮しながら「現状で、できること」を実施しました。運動会は、昨年度と同様に実施し、児童の頑張っている姿をご覧いただきました。運動会終了後、テントの片づけを保護者の皆様にご手伝いいただき、大変助かりました。校外学習等においても、仲間づくりや教科の学習内容を深めるなど、「めあて」を明確にし、児童は楽しく、意欲的に取り組んでいます。秋に実施した「オータムクエスト」も縦割り班で取り組み、異学年による交流がより深まりました。今後も、同学年だけでなく、異学年との交流も大切に取組を進めていきます。

【情報発信について】

今年度も、学校ブログを活用し、日々の様子をお伝えしました。緊急のお知らせ等については、ミルメールも併用することで、タイムリーな情報発信を心がけました。また、学級に関することについては、タブレットを活用するなど、様々な方法で情報発信をしておりますが、お子さんからも、直接、学校の様子等を聞く時間を設けてください。

【学校施設について】

トイレの改修については、該当学年の児童には不便をかけています。今年度、3月中旬頃の完成予定です。

【その他】

- ・タブレットは、ほぼ毎日使用します。教科書を学校に置く、常時リュックサック等での軽い鞆を使用するなど、「重さ」の負担がないよう工夫していきます。
- ・オンライン授業について、教科や学習の場の状況に応じて実施しており、全ての時間でできない場合もあります。
- ・土曜授業について、保護者や地域の皆様にご覧いただけるためにも、厳選して実施します。

■令和4年度 保護者 アンケート集計

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

質 問	A	B	C	D	R04 肯定的	R03 肯定的
1 お子さんは、楽しく学校へ行っている。	66	29	4	1	95	94
2 お子さんは、挨拶ができています。	30	54	15	1	84	86
3 学校は、子どもの意見や考えを大切にし、子どもの理解に努めている。	42	53	4	1	95	94
4 学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている。	38	49	11	2	87	92
5 学校は、基礎学力を身につけさせている。	51	45	3	1	96	94
6 学校は、わかりやすい授業づくりに努めている。	55	41	3	1	96	95
7 学校は、ICT 機器(タブレット端末、大型テレビ等)を使ったわかりやすい授業を行っている。	47	47	6	0	94	96
8 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	37	51	11	1	88	90
9 学校は、保護者・地域の願いに応えている。	30	59	10	1	89	87
10 通知表(あゆみ)は、わかりやすく工夫され、お子さんの励みになっている。	40	46	12	2	86	82
11 学校は、子どもの人権を尊重する教育活動を進めている。	42	52	6	0	94	93
12 学校は、子どものきまりを守る態度を育てている。	45	50	4	1	95	90
13 学校は、家庭連絡等、きめ細かい対応をしている。	49	41	9	1	90	88
14 学校は、学校だよりや学年(学級)だより、学校ブログ等で、学校の様子をわかりやすく伝えている。	69	26	4	1	95	95
15 学校は、PTA や地域の方々の協力を得ながら、子どもたちの安全確保に努めている。	53	43	4	0	96	96
16 学校は、不審者情報や交通安全、天候についての情報提供等、子どもの安全確保に努めている。	66	32	1	1	98	94
17 学校諸費(教材費、校外学習費等)の内容や金額は、適切である。	55	42	2	1	97	95
18 学校は、施設改修等、環境整備に努めている。	46	49	4	1	95	83
19 あなたは、お子さんと食に関する話をしている。	34	47	17	2	81	81
20 お子さんは、家で学習する時間を決めている。	20	38	31	11	58	55
21 お子さんは、家で自分で計画を立てて学習している。	12	36	36	16	48	46
22 お子さんは、家で学校の授業内容の復習をしている。	30	39	22	8	69	33
23 お子さんは、家庭学習において、タブレット端末を活用している。	18	38	32	12	56	56
24 お子さんは、家で1日あたり、30分以上、読書をしている。	8	12	35	45	20	21
25 お子さんの1日あたりのゲーム等の使用時間は、2時間以内である。	35	24	22	19	59	63
26 ゲームやスマホ等の使い方や使用時間について、お子さんは家の人との約束を守っている。	24	45	23	8	69	69

令和4年度 児童(1～3年)アンケート集計

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

質 問	A	B	C	D	E	F	R04 肯定的	R03 肯定的
1 学校へくるのがたのしい。	61	26	8	5			87	86
2 あいさつが できている。	51	30	11	8			81	81
3 先生は、自分の話(はなし)や考(かんが)えをきいてくれる。	76	18	4	2			94	92
4 クラスでは、おちついて学習(がくしゅう)できている。	54	29	14	3			83	85
5 授業(じゅぎょう)は わかりやすい。	65	26	7	2			91	90
6 授業では、「めあて」がくばんにかいてある。	87	9	3	1			96	97
7 授業では、自分のいけんをはっぴょうする時間がある。	63	21	12	4			84	89
8 授業の中で、友だちと話し合う時間がある。	63	28	6	3			91	89
9 友だちとの間で話し合う活動をし、自分の考えをふかめたり、ひろげたりすることができる。	54	28	14	4			82	87
10 授業のさいごに学習内容(ないよう)をふりかえる活動をよく行っていたと思う。	62	25	11	2			87	87
11 大型(おおがた)テレビやタブレットをつかった授業はわかりやすい。	75	17	6	2			92	91
12 学校では、友だちとなかよくできている。	87	11	1	1			98	91
13 校外(こうがい)学習・遠足(えんそく)はたのしい。	89	7	3	1			96	95
14 運動会(うんどうかい)はたのしかった。	83	12	4	1			95	94
15 朝(あさ)の読書(どくしょ)や朝学習ができている。	67	25	7	1			92	95
16 先生は、自分のがんばったことをほめてくれる。	58	27	11	4			85	91
17 授業や給食(きゅうしょく)で、食べることの大切さを学習している。	55	31	10	4			86	93
18 家庭(かてい)学習(家で)のべんぎょう)はできている。	52	20	12	16			72	86
19 学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの勉強をしますか。(1時間以上)	14	12	22	27	11	14	48	51
20 学校で学習したことを 家庭でふくしゅうしている。	39	24	16	21			63	72
21 家庭でタブレットをつかって、学習している。	39	25	15	21			64	79
22 家庭で、30分よりおおく、本を読んでいる。	29	21	16	34			50	52
23 1日あたり、ゲームをするのは2時間より少(すく)ない。	51	16	11	22			67	68
24 ゲームやスマホなどのつかい方(かた)やつかう時間について、家ぞくできまりを決めて守っている。	65	16	7	12			81	83

※19のみ A3時間以上 B2～3時間 C1～2時間 D30分～1時間 E30分未満 F全くしない (肯定的:1時間以上)

令和4年度 児童(4～6年)アンケート集計

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

質 問	A	B	C	D	E	F	R04 肯定的	R03 肯定的
1 学校へ来るのが楽しい。	40	44	13	3			84	85
2 あいさつが できている。	38	44	15	3			82	79
3 先生は、自分の話や考えをきいてくれる。	54	38	7	1			92	96
4 落ち着いた雰囲気の中で、授業を受けることができる。	33	51	12	4			84	85
5 授業は わかりやすい。	54	39	6	1			93	95
6 授業では、「めあて」や目標が示されている。	73	23	3	1			96	98
7 授業では、自分の意見を発表する機会がある。	51	31	13	5			82	85
8 授業の中で、友だちと話し合う活動がよく行われている。	59	36	5	0			95	90
9 友だちとの間で話し合う活動をし、自分の考えを深めたり、広げたり することができている。	35	46	17	2			81	84
10 授業の最後に学習内容をふりかえる活動をよく行っていたと思う。	38	41	18	3			79	81
11 大型テレビやタブレットをつかった授業はわかりやすい。	65	25	8	2			90	94
12 学校では、友だちと仲よくできている。	78	18	3	1			96	95
13 校外学習(遠足や宿泊学習)は楽しい。	85	11	3	1			96	98
14 運動会は楽しかった。	67	23	7	3			90	93
15 朝の読書や朝学習ができています。	51	38	7	4			89	90
16 先生は、自分のがんばったことをほめてくれる。	46	41	11	2			87	90
17 授業や給食で、食の大切さを学習している。	44	43	9	4			87	92
18 家庭学習(家での勉強)はできている。	33	42	17	8			75	79
19 少人数・TTの授業は、わかりやすい。(5・6年生)	51	29	5	15			80	75
20 学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの勉強 をしますか。(1時間以上)	7	9	22	28	17	17	38	54
21 学校で学習したことを 家庭で復習している。	11	35	33	21			46	52
22 家庭でタブレットをつかって、学習している。	15	25	34	26			40	54
23 家庭で、30分より多く、本を読んでいる。	17	22	25	36			39	45
24 1日あたり、ゲームをするのは2時間より少ない。	29	21	24	26			50	58
25 ゲームやスマホなどの使い方や使う時間について、家族できまりを 決めて守っている。	41	35	15	9			76	74

※19のみ A3 時間以上 B2～3時間 C1～2時間 D30 分～1時間 E30分未満 F 全くしない (肯定的;1時間以上)

(5) 令和5年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と今後の方策

1. 新体力テストデータ（本校第5学年・令和4年度実施）

(1) 握力(筋力)

○男子 15.05kg 女子 15.32Kgと男女ともに全国平均（男子 16.21 女子 16.01）を下回った。

(2) 上体起こし(筋パワー・筋持久力)

○男子 19.07回 女子 17.18回となり、男子は全国平均（男子 18.86）を上回り、女子は全国平均（17.96）を下回った。

(3) 長座体前屈(柔軟性)

○男子 32.31cm 女子 33.78cmと男女ともに全国平均（男子 33.79 女子 38.18）を下回った。

(4) 反復横とび(敏捷性)

○男子 35.19回 女子 32.73回と男女ともに全国平均（男子 40.35 女子 38.72）を下回った。

(5) 20mシャトルラン(全身持久力)

○男子 41.41回 女子 32.90回と男女ともに全国平均（男子 45.92 女子 96.97）を下回った。

(6) 50m走(疾走能力)

○男子 8.96秒 女子 9.24と、男女ともに全国平均（男子 9.53 女子 9.7）を上回った。

(7) 立ち幅とび(筋パワー・跳躍能力)

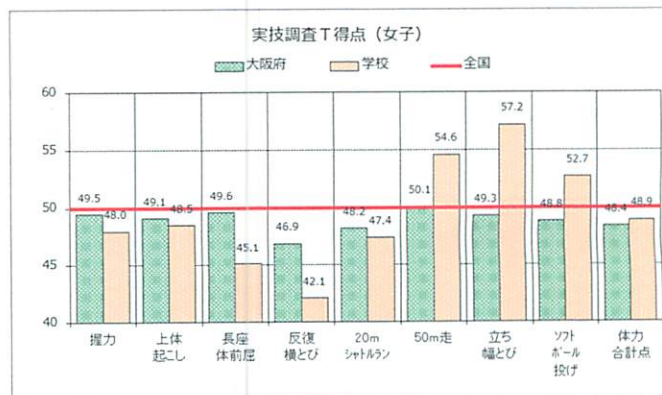
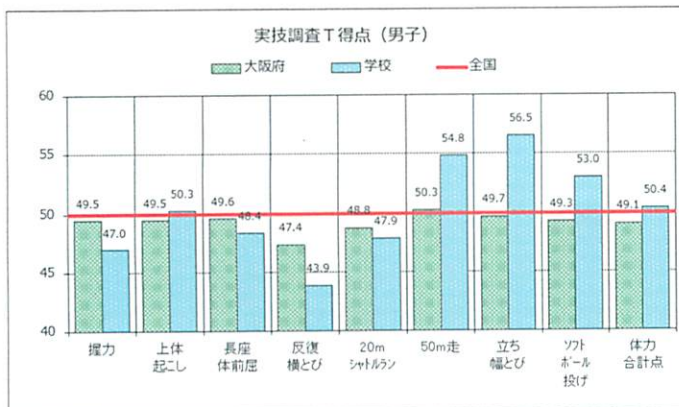
○男子 166.28cm 女子 160.63cmと男女ともに全国平均（男子 150.83 女子 144.55）を上回った。

(8) ソフトボール投げ(巧緻性・投球能力)

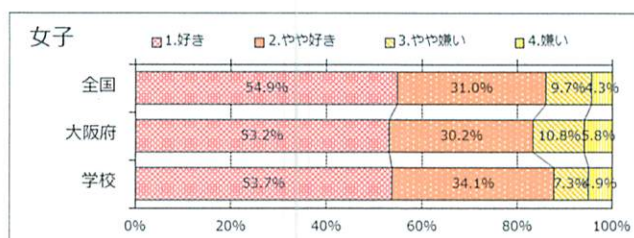
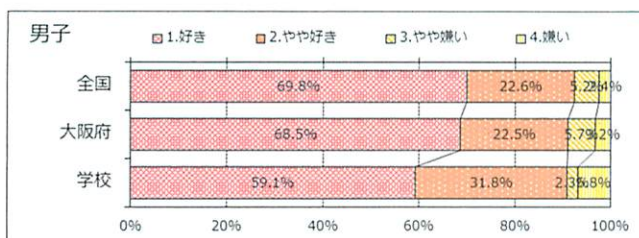
○男子 22.71m 女子 14.44mと男女ともに全国平均（男子 20.31 女子 13.17）を上回った。

〈考察〉

令和4年度は、50m走、立ち幅とび及びソフトボール投げにおいて、男女とも全国平均を上回った。男子は上体起こしも全国平均を上回った。しかし他の項目において、全国平均を下回る結果であることから、体育の時間だけでなく、日ごろから運動する習慣をつける必要がある。学校での取組とともに、家庭においても、運動習慣や身体づくりのための取組を意識して行うよう、保護者への啓発をしていきたい。



大阪府平均と比較しても、本校児童の結果は下回っている傾向にある。



「運動は好きか？」という質問に対し、男子は全国・大阪府と大差なく、女子は全国平均を上回っている。また、男女とも9割以上の児童が「運動することは大切である」と必要性を感じていることから、体育の時間や遊び等を通じて、さらに運動能力や体力の向上を見込める可能性が感じられる。運動に限らず、様々な取組について、子どもたちが自信を持って取り組めるよう、支援・指導をしていきたい。

2. 今後の体力向上に向けた取り組み

(1) 体育の授業の充実

- ・おにごっこ、縄跳び（「動きを継続させる能力」）などを取り入れる。
- ・うんてい・高鉄棒・のぼり棒・手押し車（「力強い動き」）などを取り入れる。
- ・「柔軟性・巧緻性・を高める運動」などを取り入れる。

(2) 遊びのすすめ

- ・晴れの日には、おにごっこ・縄跳び・ボール遊びなど、外で遊ぶように呼び掛ける。
- ・クラス遊びを取り入れ、クラス全員が週に一度は外で遊ぶ取組をする。

体力向上推進計画

月		月	
4月	体づくり運動（年間を通して）	11月	オータムクエスト（健足会）
5月	体力テスト	12月	持久走
6月	水泳指導	1月	持久走・なわとび
7月	水泳指導	2月	持久走・なわとび
8月		3月	持久走・なわとび
9月	運動会		
10月			

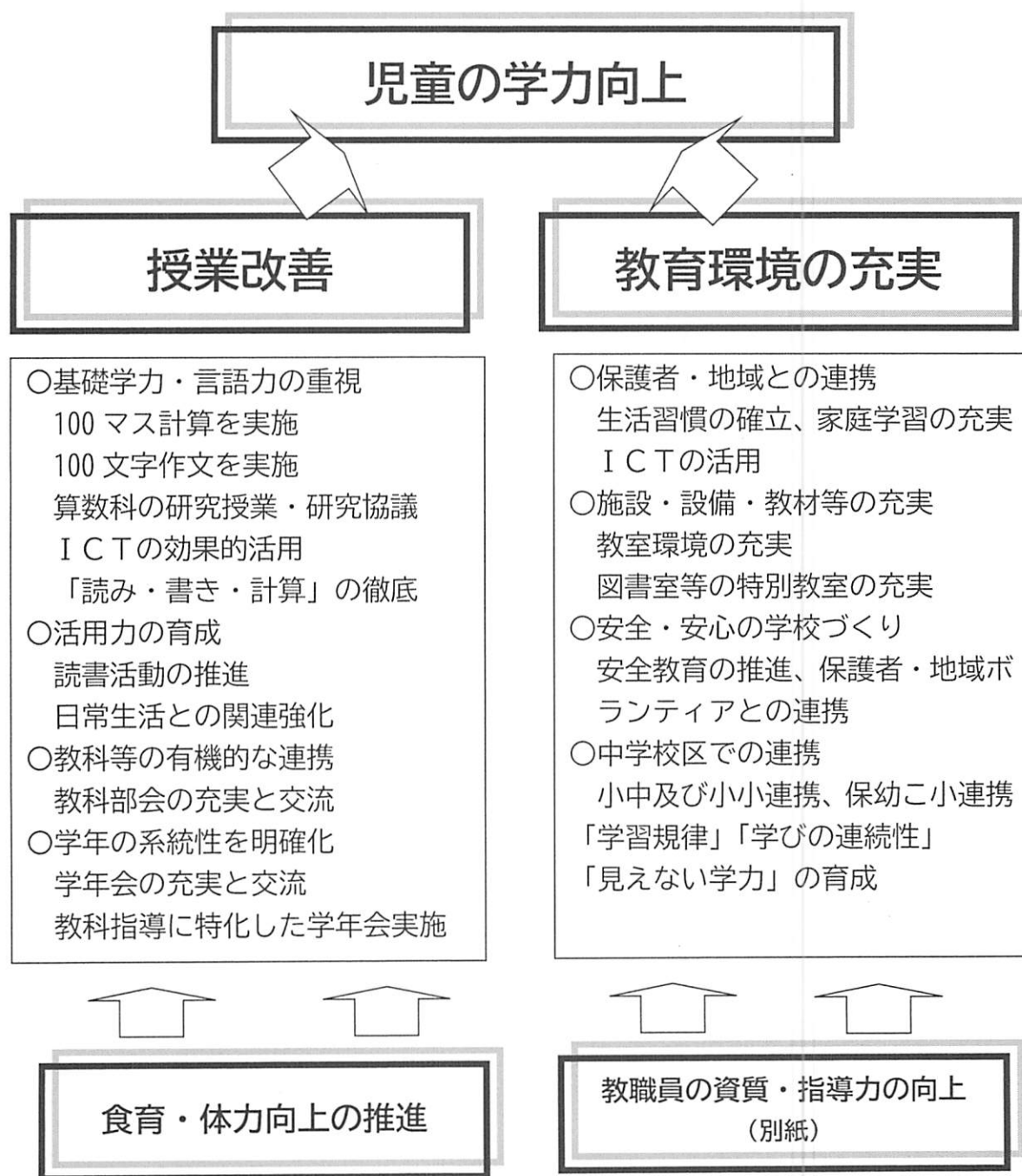
(6) 学力向上プラン

枚方市立津田小学校

「見えない学力」の向上に向けた取組推進

◆学習活動の基本となる「学級集団づくり」がよりよいものであれば、自ずと学力は向上するという考え方を前提に、児童にとって安心・安全な学習環境となるように、学級集団づくりに取り組む。

⇒ 「授業で生徒支援・指導」



学力向上プラン(教職員の資質・指導力の向上)

学習指導力の向上

- 教材研究
 - ・教材解釈(個人・学年・ブロック)
 - ・教材開発(個人・学年・ブロック)
- 授業研究
 - ・「逆向き設計」の学習指導案の作成
 - ・9年間の学びの連続性+就学前
- 公開授業
 - ・相互参観
 - ・参観・オープンスクール
- 研究会・研修会への参加
 - ・インプットとアウトプット

生徒指導力の向上

- 時間厳守
 - ・教師の率先垂範・チャイムスタート
- 学習規律の共有
 - ・児童が主体となる規律徹底へ
- 道徳教育・人権教育の実践
 - ・人生をより良く生きるための基盤
- 問題行動への対応
 - ・発達段階を踏まえた対応
 - ・児童や保護者に寄り添った対応
 - ・時には、毅然とした対応
 - ・組織的対応(一人で抱え込まない)
- 保護者への啓発
 - ・基本的な生活習慣の確立
 - ・学校と家庭のシームレスな学び

小中一貫教育

- ・学習規律の確立
- ・小中交流活動
- ・9年間の系統的な学び
- ・家庭や地域との連携

学校運営力の向上

- 企画力
 - ・日々の授業づくりと行事等を企画する力
- 調整力
 - ・校内や関係諸機関等と連携する力
- 推進力
 - ・率先して実行する力+伝える力
- 協調性
 - ・教育計画に沿って、全体で協働する力
- 積極性
 - ・新しいことにもチャレンジする力

学力向上プランにおける具体的な取組

子どもと子どもが つながる
子どもと教師が つながる

学級づくり・仲間づくり

- ①のびのびと過ごせる楽しい場。一人一人にとって安全・安心な場。
- ②規律と礼儀があり、子ども同士の好ましい人間関係が確立している場。
- ③子どもたちと教師との信頼関係が確立し、明るく温かい雰囲気の中で、子どもが安心して自分の力を発揮できる場。
- ④どの子にとっても、わかりやすい授業がなされている場。
- ⑤わからないことを安心して、「わからない。」「教えて。」と言える場
- ⑥学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが「当たり前」のこととして、受け入れられる場。・・・自己肯定感の向上
- ⑦興味・関心のあることに、じっくりと取り組める「ゆとり」のある場。
- ⑧自分がかけがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることが実感できる場。・・・自己有用感の向上

教師と教師が つながる ⇒ 「めざす子ども像」の共有、協働

- ①充実した教材研究（時間の確保） ②校内研修 ③情報共有・交流
- ④少人数指導（TT、習熟度別） ⑤ICTの活用 ⑥個別最適化の指導実践

教師と保護者・地域が つながる ⇒ 連携・協力

- ①地域に開かれた学校（学校だより、ブログ、学年だより、学級通信）
- ②家庭学習の支援『学校と家庭のシームレスな学びの実現』『家庭学習の手引き』
- ③児童の健康の保持・増進に向けた取組
- ④保護者や地域の力を借りる ⇒ サポーター 津田小校区の『みんなの学校』

※「つながり」を大切に、信頼関係を築き、推進する

令和5年度 校内研究テーマ

「もっと学びたい」～きょうどう(協働・共同)学習を通して、すべての子どもたちが「できた」になる授業～

- 算数科 1年目 ◎ひとりも取り残さない ○子ども同士の学び合い
- 「めあて」と「まとめ」、子どもの「ふりかえり」を意識した授業づくり
- 子どもに何を学ばせたいのか？ ⇒ ゴールから考える「逆向き設定」
- 算数科以外でも、「ふりかえり」から次の学びにつなげる
- 日々の授業を何よりも大切に！⇒略案を作成するなど、主体的に取り組もう！